

# 悩める子どもに 向き合い守るには



三友美恵子



教育長

寄り添い、継続的な  
信頼関係築く

**質問** 座間市の事件の問題は、社会全体で解決の糸口を探さなければならぬと思う。町に子どもたちの悩みを受け止める窓口はあるのか。

**答弁** 教育長 子どもは、生活体験を重ねる中で、いろいろな不安や悩みを抱えているのが現状である。その不安や悩みを受け止めるための欠くことのできない窓口が家庭と学校である。

家庭は、子どもたちが安心して帰れ、ほっとする場。困ったときや悩んだとき何でも話せ、何でも相談できる家族がいる場所である。毎日通う学校は、自分の思いが言え、そして聞いてもらえる場で、子どもが居場所と感じられる学校であることこそが大切な窓口だと思う。学校では、生活ノートや教育相談、スクールカウンセラーや教育相談員による不安や悩みの相談等、いつでも相談できる態勢をとっている。町でも、教育

24時間子供SOSダイヤル  
0120-0-78310  
各教育委員会等によって運営されている、全国共通のダイヤルです。

いじめに悩んだら、心配な友達がいいたら、いつでも話を聞きましょう

☆保護者の方も、相談できます  
☆24時間、通話料無料で相談できます

月曜日～金曜日9:00～19:00、第2・4土曜日9:00～15:00は、県総合教育センター子ども教育相談室につながります。上記の時間外、及び祝日・年末年始は、県中央児童相談所（こどもホットライン24）につながります。

相談窓口の充実を

**質問** 子どもの居場所について、はどのように考えるか。

**答弁** 教育長 まずは学校が子どもにとっての居場所になることだ。教職員が早期に子どもの不安や悩みに気づき、寄り添い、適切な対応が取れる態勢づくりが大切である。教職員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、組織的な支援の充実を図っていききたい。

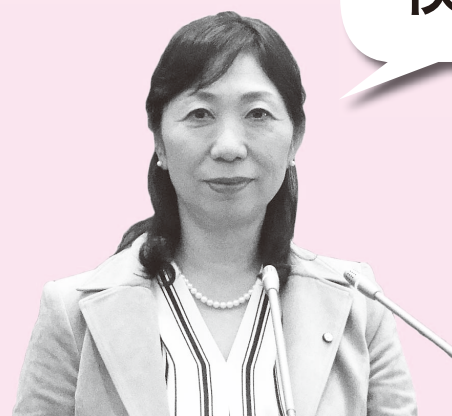
**質問** 家庭教育についてはどのように考えるか。

**答弁** 教育長 特効薬はないという自覚が必要だ。大切なことは、地道にそして継続的に子どもと接し、思いを打ち明けたいとき、その心に寄り添う人間関係を築いていくことであり、日ごろから子どもと向き合うことが最も大事である。現在の子どもから遠ざかってしまった「自然の中で遊ぶ」「家族の働く姿を見る」「家庭での家族の笑顔」の3点を、いかに回復させていくかが我々の一番の課題であると思う。

こんな質問もしています

・平成30年度の予算編成について  
・まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

# 消防分団統合の 検討は



備前島久仁子



町長

意見交換したが  
調整できていない



地域の防災・防火活動の拠点

**質問** 町内に10ある消防分団詰所は築40年で建て替え予定だが、老朽化している詰所が多く、毎年建て替えなくてはならない。一方、町内の火災は年間10件以下と減少しているため、「分団の統合を検討してから、詰所の建て替えをすべきでは」との声がある。

**答弁** 町長 分団の統合計画は、消防本部や分団員と

意見交換したが、調整ができていない。

町の公共施設は、長寿命化により更新費用の縮減を図っている。詰所の建て替えについては、既存建物の状況や財政状況等、総合的に判断したい。

## 勤労者センター敷地の 購入時期・価格は

**質問** 勤労者センター敷地はJAに返還する時期が近く、その後は「世代交流多目的施設」(※1)を役場東側に建設する計画だった。しかし、勤労者センターを継続使用できるよう町が敷地を購入することのことだが、時期や価格はどうか。

**答弁** 町長 世代交流多目的施設の建設には多額の費用がかかるため、勤労者センターを続けて活用できるよう、敷地購入に向け協議を進めている。来年度予算に、用地測量及び土地取得費用を計上する予定だ。

## 老朽化している町営住宅の 早期建て替えを

**質問** 町営住宅の中には築54年を経過している八幡団地をはじめ、老朽化が進み入居募集をしていない団地がある。しかし、まだ入居している方もいるので、町で移転費用をもってでも一時的に移っていただき、空いた団地から早期に建て替えを進めるべきではないか。

**答弁** 町長 老朽化のため入居の入居者に対して意向調査を実施した。「移転も可能」との回答者もあり、今後も移転を勧めていく。移転の見込みが立ち次第、建て替えを検討していきたい。

こんな質問もしています

・平成30年度の予算編成の重点施策について  
※1「世代交流多目的施設とは」  
役場周辺地区公共施設等高度利用計画における多世代が利用できる町民交流施設